



〒805-0071 北九州市八幡東区東田二丁目4番1号
Tel 681-1011 Fax 661-7503
HP: https://www.kmnh.jp/
発行: いのちのたび博物館 ミュージアムティーチャー

新学期が始まっていると思いますが、まだまだ暑い日々が続いていますね。熱中症などにならないように気を付けてください。さて、今回は、多くの方にお越しいただいている夏の特別展「恋するいきもの展」の展示の一部を紹介いたします。9月18日まで開催していますので、ぜひご覧ください。



夏の特別展 「恋するいきもの展」



大盛況です!

イッかくの骨格標本の展示もあるよ



さんちゃん

先生、ちょっと聞いて!

先生向けの博物館研修を実施しました!!

夏休み期間中に市内外小中学校の先生向けの博物館研修を行いました! 暑い中、博物館での実習に参加していただきありがとうございました。



学芸員による再現民家などの説明



体験プログラム



バックヤードツアー



スペース LABO や KGG にも行きました

ミュージアムのタネ



生物どうしのつながり・

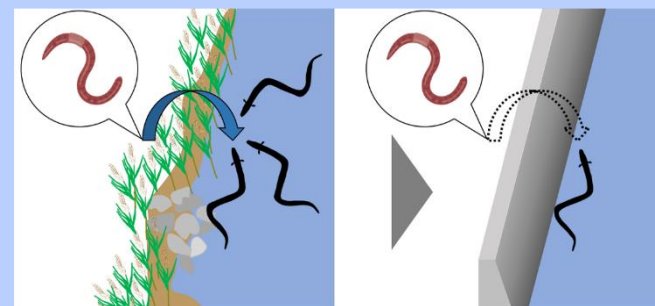
陸と水とのつながりがはぐくむ生態系

自然界の生物たちは単独の種類だけでは生きていけません。われわれ人間(生物学上のヒト)も、生きていくためにはさまざまな食べ物を食べる必要がありますが、それらは元は地球上の生物たちです。この地球には数を減らしている生物がたくさんいます。中でも絶滅が心配されているようなものについては絶滅危惧種に選ばれています。絶滅しないようにするための取り組みとして、人工的に数をふやして野外に放すという方法があります。ただし、生態系の中で一部の種の数が増えすぎると、たとえばえさになる生物の数が急に少なくなり、バランスがくずれてさらに数が減ってしまうこともあります。減っている原因そのものを解決していくことが必要です。



夜間えさを探す若いウナギ

数が減っているのはめずらしい生物だけではありません。ウナギのかば焼きは日本を代表する水産物のひとつですが、ウナギの数は60年前と比べて50分の1ほどにまで減ってしまいました。ウナギの大好物にミミズがあります。川岸がコンクリートでおおわれ、水と陸とのつながりが弱くなっている場所にくらしているウナギは、川岸が自然な場所に比べてやせています。



川岸が自然な場所とコンクリートの場所のウナギ

これには水中に落ちてくるミミズの量が少なくなることが関係していることが分かっています。じゅうぶんな栄養がとれなければ、成長がおくれるだけでなく卵の量が減ってしまい、しだいに数が減っていくことが予想されます。

もちろんウナギはミミズだけを食べるわけではないので、水の中にじゅうぶんなえさがあればよいとも言えます。

ウナギをふやすためには、ウナギを川に放流するのではなく、えさの量をふやしていくために、陸と水とのつながりを回復させ、水陸両方で多様なえさをふやしていくことが重要なのです。

自然史課学芸員 日比野 友亮